

- ①基礎学力の定着を図り、個に応じた指導の推進
- ②主体的に学習に取り組む習慣をつけるための家庭学習の確立

学力向上推進員 土井 都善	委員 校長・総務 3学年主任 1学年主任	横島道彦 福田一敏 松尾聖子	教頭・総括補佐 2学年主任・研修主任 国語主任	松谷 薫 尾形みゆき 土井都善
------------------	-------------------------------	----------------------	-------------------------------	-----------------------

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ①落ち着いた態度で話を聞いたり、与えられた課題に一生懸命取り組んだりすることができる。 ②漢字の読み・書きや簡単な文章の読解、四則計算や基本的な法則の理解等について定着が見られる。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができる。 ②授業中、わからないことを自分から進んで質問することができる。	①朝学習の確認テストで、正答率が70%以上となることを目指す。 ②「授業でわからないとき質問する」生徒が70%以上となることを目指す。(生徒アンケート)	これまでの取り組みを継続しながら、授業中、質問の時間、振り返りの時間をもつ。また、個別指導や生徒同士の教え合い学習を推進する。	各教科で授業のはじめに「本時の目標」を書くことができた。 朝学習を計画的に実施し、生徒は落ち着いた態度で課題に取り組むことができた。 班学習、ペア学習を取り入れ、質問しやすい雰囲気が出てきている。 机間指導や定期テストの到達度の確認により、個に応じた指導をすることができた。	朝学習の確認テストの年間の正答率平均が76%と目標を達成することができている。 「わからないことをそのままにせず自分から進んで質問している」生徒の割合は、6月は81%だが2月には59%に減少している。
課題 主体的に学習に取り組むことのできない生徒が見られる。	①授業の目標と流れをはじめに示し、見直しをもって学習に取り組ませる。 ②国語は漢字・語彙、数学は基本的な計算練習、英語は英単語・文法、それぞれを1週間程度学習し最終日に確認テストを実施する。	①学習の目標・内容を明示し、振り返り学習を行う。 ②朝学習の確認テストで70%以上、正答できなかった生徒には再テストをするなど個別指導を実施する。		評価 B 次年度における改善事項 授業中、生徒が教員への質問だけでなく、生徒間でお互いに質問できる時間をとり、わからないことをそのままにせず、自分から進んで質問できるようにする。 読書カードの取り組みを継続しながら、国語科の教員を中心に朝読書の意義を理解させて取り組ませる。	

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 方法や手順が示されている学習に、集中して取り組み、課題解決のためのグループ活動に意欲的に取り組む。	なぜそう考えたのか根拠や理由を明らかにして、自分の考えをわかりやすく表現することができる。	「自分の考えをわかりやすく相手に話したり書いたりできる」生徒を70%以上にする。(生徒アンケート)	これまでの取り組みを継続しながら、グループ学習や全体の発表の機会を増やし、話し合い活動を充実させる。	全教職員が研究授業を行い、生徒が主体となり自分の考えを相手に伝えることを目指した授業実践に取り組んだ。 ホワイトボードを活用し、グループで話し合ったり、全体に発表したりするなど、発表の機会を増やし、表現する力の育成を図った。	生徒アンケート「自分の考えをわかりやすく相手に話したり書いたりすることができる」生徒の割合は、6月は75%だが2月には60%に減少している。
課題 自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが十分でない。	①ホワイトボード等を活用し、生徒自身の考えを表現できる機会を増やす。 ②定期テストに思考力や表現力を問う出題をする。 ③授業力向上のための研修や授業研究会を実施する。	①ホワイトボードを積極的に活用する。 ②定期テスト時、思考力や表現力を問う問題を1問以上出題する。 ④研究授業(大研4小研3)を実施する。		評価 A 次年度における改善事項 授業では自分の考えを説明する学習活動を取り入れ、テストでは考え方を記述する問題を取り入れる。 定期テスト後には自主学習ノート等を活用し、見直しに取り組ませる。 徳島県国語力向上タスクフォースの提言「書く活動を増やす」ことに引き続き取り組み、根拠を明確にして書いたり話したりするなど伝え合う力を伸ばす。 研究授業の実施を継続し、教員全体の授業実践に対する意識を高める。	

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習の準備や板書をノートに写すなど基本的な学習態度がほぼ定着しており、与えられた課題にまじめに取り組むことができる。	①家庭学習の仕方がわかり、計画的に課題解決に向けて自ら取り組むことができる。 ②テスト前には「ふりかえり手帳」を使った「学習計画表」を作成し、計画的に勉強することができる。	「普段から計画を立てて勉強に取りかかっている」「テスト前には、計画を立てて勉強している」生徒を70%以上にする。(生徒アンケート)	これまでの取り組みを継続しながら、「ふりかえり手帳」や家庭学習の友を活用し、学年ごとの目標をもたせる。	「ふりかえり手帳」を、教員が毎朝確認し個別に声かけをすることで、生徒の生活の様子を把握することができた。 自ら課題を見つけ、取り組むよう、家庭学習の仕方を個別指導した。 「ふりかえり手帳」の学習計画表にそって、計画的に学習をすることができた。	「テスト前にはふりかえり手帳を使い、計画的に勉強をすることができている」生徒の割合は6月は72%だったが2月は64%に減少し、「家庭学習の仕方がわかり、自主的に家庭学習ができている」生徒の割合は6月は67%だったが2月は73%に増加した。 「授業中、自分から進んで発表している」生徒の割合は6月は67%だったが、2月は59%に減少した。
課題 ①家庭学習の時間が十分でない生徒が見られる。 ②自ら課題を見つけ解決する力が十分育っていない。 ③自ら発表できる生徒が少ない。	①毎日記入させることで、自分がすべきことを把握させ、主体的に学習する力を養う。 ②話をしっかり聞かせ、励ましや褒める言葉を大切にし、意欲的な発表につなげる。	①毎日、「ふりかえり手帳」を点検し、個々の指導をきめ細かく行う。 ②家庭とも連携し、週1回は手帳を確認してもらうようにする。		評価 B 次年度における改善事項 引き続き「ふりかえり手帳」を活用し、見直しをもって計画的に学習に取り組めるように指導する。 「ふりかえり手帳」を毎朝チェックし、見えてきた生徒の課題を全体の課題として捉え、教員間で共通理解を図ると共に、面談や学年通信等を通じて家庭へも発信する。 自ら発言できる生徒を増やすため、自分の考えを発表につなげるための手立てや発問を考える。	

平成30年度 学力向上ロードマップ

